

大島みらい新聞 No.23

2015年2月25日発行



ごあいさつ～ No.23 の発行にあたって～

大島みらいチーム OB 平尾盛史
(現・ティーハウス建築設計事務所所属)

大島のみなさん、大変ご無沙汰しております。震災からちょうど1年後の2012年3月から約2年間半、「みらいを考える会」の開催ごとに大島へお邪魔させていただいておりました。今はこの「大島みらい新聞」の読者の一人であり、私にとってもこの新聞が島の今を知る重要な情報源となっております。

これまでの一連の新聞を読み重ねる中で、大きな変化として感じることは、島での活動や話し合いのテーマがより多様になり、それに伴って、学生から大人まで、活動に顔を出される方々も2年前よりずっと広がっている、ということです。

「大島みらい新聞」も No.23 まで数えましたが、「大島のみらいを考える会」がこれからも島の「みらい」を話し合う場であるとともに、人々が集い、繋がり合い、そしてその輪を広げていくきっかけの場所であり続けることを願います。



第 2 1 回
大 島 の み ら い を
考 え る 会

大島の料理に舌鼓を打ちながら大いに盛り上がる

過 去何回かのみらいを考える会では、大島で昔から食べてきたという大島カブや大島で収穫した蕎麦に海藻を入れてみたら結構おいしい、といったことが話題になってきました。

そこで今回は、大島の産物や昔からの料理やお菓子を持ち寄って、実際に食べながら、昔の話や復興の話をしようということになりました。

写真を見ていただければ分かるように、予想以上に大量?の食材や料理をご用意・提供していただき、さながら1か月遅れ

の新年会といった盛り上がりになりました。初めて挑戦された料理を出していただいた方もおられ、新メニューの開発につながったかもしれません。

会では、食べるばかりではなく、皆さんそれぞれが、最近の近辺の話題や復興に向けての思いを語ってくださり、いつもにも増して口が滑らかなったように思います。最後は亀山に日本一長い階段をつくらうという提案で盛り上がりました。

食べ物の力はつくづく大きな、と感じながら、当初は一品グルメの持ち寄りとな

り易に考えておりましたが、予想以上に大きな会になり、料理を用意・提供していただいた方々に思いの他ご負担をかけたのではと反省しております。おかげさまでとても盛り上がった会になりました。ありがとうございました。(長峯 純一)

ひと言提案



大島カブのカルボナーラは結構いけました。食べながら、大島カブポナーラという名前を考えたのですが、どうでしょう。

大島の皆さんの料理は次ページ!!



【大島カブのおこわ】

漁協婦人部(会長:島山悦子さん)の皆さん、菊田里子さん提供



【大島カブとカキのピザトースト】

堺健さん提供



【大島カブのカルボナーラ】

菊田公子さん提供



【野菜の煮物】

菊田里子さん提供



【大島産のそば&まつもそば】

水上俊光さん提供



【牡蠣】

小松俊浩さん提供



【どんこ汁】

漁協婦人部(会長:島山悦子さん)の皆さん提供



【ゆず湯】

白川好子さん、小山由紀子さん提供



【ゆずワッフル】

小野寺恭子さん提供



【昆布入り揚げ餅】

小野寺恭子さん提供



【めかぶ】

菊田公子さん提供

大島若者懇親会

懇親会を企画した神田大樹氏からのメッセージ

大島に限らずどこでも、そもそも若者がわいわい集まって真面目な話もふざけた話もする、そんな機会は地域の中に転がっているものではないと思います。

でも、地域のことや未来のことを話すこと、そんな話もできる友達や仲間を増やすこと、今回の懇親会は、そんな小さなきっかけになればと考えて企画しました。ヨソモノの僕を含め、参加してくれたのは15名ほどでした。ありがとうございました!

次回は何かテーマを決めてもいいし、今回のようにざっくばらんでもいいし、また企画したいと思います。いろいろと立場や事情はあるかと思いますが、どうせならあまり難しく考えずに、楽しく集ってもらえたら嬉しいです。大島がさらにいい場所になっていくために、僕たちにできることからやっつけていけたらと思っています。僕にもお手伝いさせてください。(神田大樹)





大島で生きる人のここだけのななし

第12回「大島と水上不二」

水上不二研究会の皆さん

みずかみ ふじけんきゅうかい

菊田栄四郎さん 小野寺佑紀さん 菊池和子さん 大越美奈子さん
(会長) (副会長) (会計) (会員)



-水上不二研究会のことをご紹介いただけますか。

菊田：今年は、水上不二生誕110周年、没後50年で記念すべき年です。昨年は不二が作詞した「アスナロウの木」が、「NHK みんなのうた」で放映され、有名になり、日本全体に広がりました。2014年は水上不二にスポットが当たった年でした。

水上不二研究会の大きな行事は、「水上不二作品感想画コンクール」です。気仙沼市内の全小中学校生が応募できます。今年は、10回目を迎え、2月15日(日)に表彰式を市民会館中ホールで行います。今回は、元気仙沼図書館長の荒木英夫氏が所有する、水上不二に関する貴重な資料等の展示会も行われます。

この表彰式を支えていただいている、「NPO法人 緑の真珠・アスナロウの会」(埼玉県)代表理事の保田さんから、毎年、子供たちへの参加賞を支援していただいております。今

大島で生まれ育った詩人が作った詩を、没後50年経った今でも小学生からお年寄りまでみんな口ずさめる。こういった地域があることは素晴らしいと思います。

回の応募数は306点でした。

-水上不二研究会のメンバーは、現在、何人でしょうか？

菊田：21人です。

大越：水上不二研究会以外にもこのような会はありますか？

菊池：ないと思いますよ。個人的に水上不二が好きなのはたくさんいるんですけどね。

小野寺：島外にも研究会を応援して下さる方がたくさんいますよね。

菊池：そうですね。私たちが思っている以上に、水上不二のマニアはけっこう全国にいるんですよ。

-研究会の皆さんは、子供の頃どのように水上不二の詩に触れていましたか？

菊池：学校に飾ってある額を毎日のように目にしていました。

大越：「緑の真珠」の一節は普段から聞いていて、耳には馴染んでいましたね。

菊田：『波におどる太陽 かもめは雲と羽ばたく』大島中学校の校歌は、いつ聴いても“いいな”と思いますね。大島中学校を卒業した人たちはみんなそう感じていると思います。

菊池：『こども会の歌』もいいですよ。

菊田：『こども会の歌』は、ちょうど私が小学校6年生の時に作られたものです。昭和39年ですね。水上不二はその翌年に亡くなりました。大島小学校に行くと、水上不二の写真や在籍簿、通信簿もあります。

-今の子どもたちも皆さんの子供の頃と同じように、水上不二の詩に触れているのでしょうか？

菊池：大島小学校では、帰りの時刻になると、水上不二作詞、マウンテンマウス作曲の『夕やけの道』が静かに流れています。とってもいいですよ。

-今後の活動方針について教えてください。

菊田：大島の復興を文化の面で盛り上げていければと思っています。今、副会長の小野寺佑紀君に水上不二の文献を記録してもらっています。

小野寺：不二が自費出版した詩集など、古い貴重な本が多いのですが、本の巻末が無くなっていたりするものもあり、蔵書目録を作りました。

小野寺：小学校には、「十八鳴文庫」というものもあったそうです。これは、不二が寄付したものを文庫本化したものなのですが、今はもう残っていません。中学校の方には「水上不二文庫」があります。

菊田：できれば、そのような貴重な資料を保存するために、水上不二記念館のような場所を作りたいと願っています。今までの感想画コンクールの作品も展示したいですね。

-水上不二の資料を保管し、展示できる場所を作りたいということですね。

小野寺：はい。個人で貴重な資料を持っておられる方がいらっしゃいます。研究会の活動目的の一つは、それらが散逸しないようにすることと、どこにどんな資料があるかを把握することです。そして、子どもたちに、水上不二の詩にたくさん触れてもらいたいということですね。

-最後に、水上不二の詩は大島にとってどのようなものかを教えてください。

小野寺：小さい子どもからお年寄りまで、同じ地域でみんなが知っている詩がある地域はなかなか無いですよ。その地域で生まれ育った詩人が作った詩を没後50年経った今でも、みんなで口ずさめる。こういった地域があるというのは素晴らしいことだと思います。

菊田：「大島の」というよりも、もっと広い意味で「気仙沼の」「宮城県の」水上不二という考え方も必要だと思います。

大越：水上不二は気仙沼市内や東京の小中学校でも、校歌を作っていますよね。

菊池：気仙沼だけではなく、宮城県民が水上不二を知るきっかけになるような活動もできるといいですね。

-水上不二研究会の皆さん、今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

取材：樋口、城間

皆様のお家で余っている植物の苗や種を提供いただけますでしょうか。提供いただいた種・苗はエコ&アートで募集いただいた庭先に植えさせていただきます。連絡先：090-2046-5884 (小林達矢)

種や苗を募集中！！

大島みらい新聞 No.23 2015年2月25日発行

企画・制作・発行 気仙沼大島みらいチーム
編集長 長峯純一(関西学院大学)
協力 大島地区自治会連絡協議会
気仙沼みらい計画大島チーム
写真・デザイン 小林達矢、楠目晃大、樋口徹也、古永家由記、城間リカルド、石井佑果、千々松海図、北岡佑太、吉本響
お問い合わせ 小林 達矢
Mail:5884.tat@gmail.com

第22回 大島の未来を考える会

AOMORI

テーマ 阪神淡路大震災からの復興体験を聞いて大島への活かし方を考えましょう。

ゲスト 神戸市東灘区 岡本商店街理事長 松田朗氏

西宮北口駅北東地区 北口・高木まちづくり協議会前会長 土井成三氏

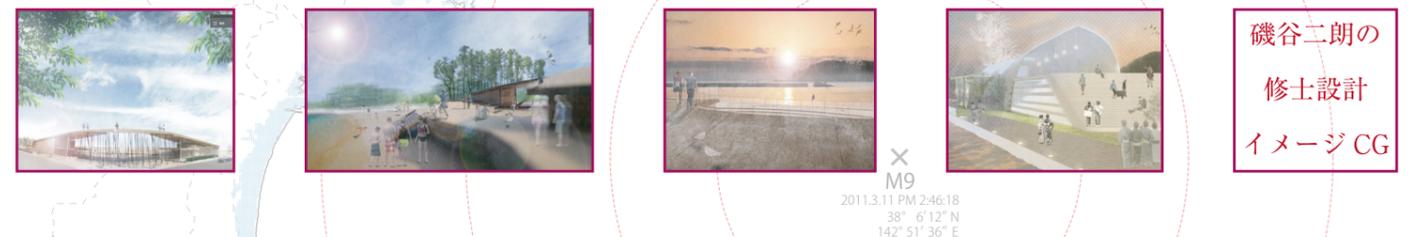
日時 3月15日(日) 13:30~15:30

場所 大島開発総合センター 2F 和室

参加費 無料

共催 気仙沼大島みらいチーム・大島地区自治会連絡協議会

大島みらいチームの磯谷二郎が修士設計で考えた理想の大島を発表します！



三陸復興に向けたトークサロン - 街にいかにして賑わいを取り戻すか -

日時： 3月15日(日) 18:00~20:00 (17:30開場)

場所： K-port (気仙沼市内湾地区)

参加費： 500円(ワンドリンク付き)

共催： 気仙沼大島みらいチーム / 気仙沼商工会議所 / 特定非営利活動法人 気仙沼まちづくりセンター

ゲスト発言者

松田朗氏(神戸市東灘区 岡本商店街理事長)

「いかにして商店街は復興したのか」

土井成三氏(西宮北口駅北東地区 北口・高木まちづくり協議会前会長)

「行政主導の復興計画にどこまで住民意見を反映できたのか」

小野寺靖忠氏 / 横田真美子氏 / 他2~3名(市内からの発言予定者)

トークサロン終了後、懇親会(20:00~21:30)を別途2000円の参加費で行います。参加される方は3月13日までに事前申し込みをお願いします。

メール：nagamine@kwansei.ac.jp(長峯まで) / 電話：0226-25-7801(三浦まで)

趣旨：
いよいよこれから街の再興が本格化します。しかし、街に人の「賑わい」をどう取り戻すかということは、十分に議論が尽くされてはおりません。今回、阪神淡路大震災からの街の復興を経験したお二人を招きながら、いかにして復興をなしえたのか、何が足りなかったのかを聞きながら、気仙沼の街の再興について語り合えればと思います。